

第2学年 国語科学習指導案

〔伝統的な言語文化分野〕

単元名 いにしえの心を訪ねる 扇の的

場所 : 南舎1階 2年1組教室

学級 : 大野町立大野中学校

2年1組(31名)

授業者: 伊藤 大輝

1. 指導の立場

(1) 単元について

古典には、現代に通じる価値観や、現代と違った、あるいは現代人が忘れてしまったものの見方や考え方が描かれている。現代語訳なども参考にしながら、昔の人の心に触れ、古典の世界を楽しむとともに、今を生きる自分たちを振り返るきっかけにしたい。

また、古典や漢文には、それぞれ特有の調子やリズムがあり、それが古典の魅力を支える要因の一つになっている。朗読を通して、その魅力を存分に味わわせたい。

以上の2点について「扇の的」では、①歴史的事実の底流にある与一の心情に目を向けること、②音楽的なリズムと映像的な美しさを味わうことを目的として指導する。

①歴史的事実の底流にある与一の心情に目を向けること

沖には平家、陸には源氏、両軍が対峙する緊迫した場面で、沖の小舟に浮き沈みする扇を見事に射落とした与一の神業の華々しさが「かぶらは～ければ」の情景描写から読み取れる。また、源氏の命運を懸けたこの一矢に、死を覚悟しながら臨んだ若き与一の追い詰められた心情が「南八幡大菩薩～なつたりける」の行動描写、情景描写から読み取れる。この二つの場面を中心に与一の心情やその時の情景を読み取り、後半の「あ、射たり」「情けなし」の言葉に込められた思いや考え方について注目させたい。

②音楽的なリズムと映像的な美しさを味わうこと

「平家物語」は、琵琶法師によって語り物として人々に享受されていた。そのため対比や繰り返し、七五調に近い音律、「よつびいてひやうど放つ」「ひいふとぞ射切つたる」などの印象的な擬音語などが多用され、通常の散文とは異なるリズムをもっている。現代の我々が普通に朗読する際にも、そのリズムを感じ取ることができるだろう。さらに装束描写や長台詞によって人物をクローズアップすることで映像的な効果を上げていることにも注目させたい。

(2) 生徒の実態

生徒はこれまでに、「いろは歌」や「竹取物語」、「今に生きる言葉」の単元を通して古典作品に親しんできた。その中で登場人物の言動を現代の自分たちと比べてたり重ね合わせたりしながら心情を想像することができるようになった。

また古典の文章について、現代の文章との違いを確かめる活動を通して、現代とは違う意味で使われている言葉や、現代では使われなくなった言葉の意味を確かめながら読むことを意識するようになった。

本時では扇の的前編と比べて「あ、射たり」と「情けなし」に込められた気持ちを読み取る活動を通して、当時の人々の考え方について捉えさせ、第4時に行うまとめの活動の根拠につなげていきたい。

2. 研究との関わり

【研究内容2】について

国語科部では、「国語で正確に理解し適切に表現する生徒」の育成を目指している。本単元では『扇の的』に登場する登場人物の見方や考え方についての考えをもとを単元を貫く課題と設定し、主体的な学びを生み出したいと考えている。生徒が登場人物のものの見方や考え方を捉えることができるように、原文や現代語訳を根拠としながら、歴史的背景も踏まえて、与一、平家や源氏の人々、義経の思いを考えることができるよう指導していきたい。また、板書やノートなどで、それぞれの立場の思いについて比較したり、整理したりしながら捉えられるようにしたい。

3. 単元構造図(全4時間)

【単元のねらい】

扇の的の場面に関する探究的な学習を通して、屋島合戦の命運を託された那須与一や「弓流し」の場面における義経の姿から表れる武将の心情についての理解を深めさせるとともに、それを読み取る技術を習得し、主体的に探究しようとすることができる。

【単元はじめの生徒の意識】

平家物語は琵琶法師によって広められた軍記物語である。無常観を背景に平家の栄華と没落、武士階級の台頭が描かれている。

①【平家物語 冒頭部分】

課：平家物語で描かれていることは何だろう。

<ねらい>

平家物語の冒頭部分や「扇の的」の原文を朗読を通して、内容の大体や、文章の調子や響きから対比を捉えることができる。(知・技)

<生徒の意識>

平家物語には武士の生き様が描かれており、平家の栄華と没落の無常観が描かれている。

②【扇の的 前編】

課：扇を射落とすことを命じられた時、与一はどのような心境だっただろうか。

<ねらい>

扇を射落とすことを命じられた与一の様子や、扇を射落とした様子から、古人の見方や考え方を捉えることができる。(知・技)

<生徒の意識>

上官の命令は絶対であり、何としてでも扇を射落とさなければならない与一の覚悟や願いが情景描写や、言動から伝わってくる。

【③(本時)扇の的 後編「年五十ばかりなる男を射落とす与一」】

課：「あ、射たり」「情けなし。」には、古人のどのような思いが込められていただろうか。

<ねらい>

年五十ばかりなる男を射落としたときの「あ、射たり。」「情けなし。」と言った人の思いを読み取る活動を通して、当時の人々の見方や考え方を捉えることができる。(知・技)

<生徒の意識>

命令であればそれを遂行しなければならない武士の非情さや、与一の勇猛果敢な姿がこの部分には描かれている。

【④弓流し】

課：「扇の的」での与一や「弓流し」の義経の言動に対する自分の考えをもち、交流しよう。

<ねらい>

今までの学習でとらえた登場人物の言動や「弓流し」の場面での義経の言動をもとに、個人の見方や考え方に対する自分の考えをまとめ、作品を読み深めることができる。
(思・判・表)

<生徒の意識>

自身の死よりも自身の恥が生き続けることの方が辛いと考え行動する姿は扇の的で描かれていた武士の生き様に通ずる。

【単元出口の生徒の意識】

「扇の的」と「弓流し」の場面を通して、「平家物語」を読んできた。そこには、平家の栄華と没落という「無常観」が描かれていた。また、そこに登場する当時の人々の見方考え方からも無常観を感じた。当時は、現代の私たちと違う価値観で生きてきたのだと思う。一方、「情けなし。」と言った人には共感できたので、古典って楽しいと思った。

【単元を貫く課題】「扇の的」に登場する登場人物の見方や考え方に

ついての考えをもとう

4 本時のねらい

年五十ばかりなる男を射落としたときの「あ、射たり。」「情けなし。」と言った人の思いを読み取る活動を通して、当時の人々の見方や考え方を捉えることができる。（知・技）

5 本時の展開

過程	学 習 活 動		研究内容について						
導入	1. 本文を読み、前時の既習事項の確認と本時の課題を設定する。 ・ 当時は殿の命令は絶対であり、与一は扇の的を射落とさなければならなかった。 ・ 義経の命令「扇を射落とすこと」であったため、与一にはこの命令を拒否するどころか、失敗することも許されなかった。 ・ 命令や名声は命よりも重いとされていた。 ・ 美しい情景描写から敵，味方関係なく，認め合い，ほめたたえ合う気持ちが読み取れた。		・ 前時までの扇の的の場面を揭示し，振り返り，当時の武士にとって命令や名声が命よりも重いものであると復習し，今回の場面を読み取る際の足掛かりとする。 【研究内容2】						
展開前段	「あ、射たり」「情けなし。」には，古人のどのような思いが込められていたのだろうか。		・ 対句表現や前場面との読み比べを通して，与一だけでなく，そこにいた人々の思いについて言葉を根拠に読み取る。また全体交流の場でもどの言葉からどんなことを感じたのか，なぜそう感じるのかを説明できるように発表の仕方を掲示する。 【研究内容2】 ・ 「あ、射たり。」と「情けなし。」と言った理由を比較できるようにまとめる。比較したものから，それぞれの見方や考え方の違いを捉えながら，思いを捉えることができる。 【研究内容2】						
	2. 「情けなし。」と言ったものの思いに触れ，当時の人々の考え方，感じ方に触れる（個人追究→全体交流）								
	<table><tr><th>「あ、射たり。」</th><th>「情けなし。」</th></tr><tr><td> ・ 相手が自軍の行いに感嘆していても，戦場であるから命令を下した義経の行動に当時の武士の考えがある。 ・ 例え自分に対し感嘆を表す舞を踊ってくれていても義経の命令は絶対だから，与一も覚悟したと思う。 ・ 今回はかぶら矢ではなく，中差を使ったところや十分に引き絞ったところに覚悟を感じる。 </td><td> ・ 年五十ばかりなる男は相手が敵であっても，扇を射落とした与一を褒め称えて舞ったのにひどい。 ・ 前時までの場面では戦いを忘れて両軍感嘆していたのに，いきなり戦いの最中に入っていくところに源氏の非情さを感じる。 ・ 「平家の方には音もせず」からびっくりして静まり返った様子がわかる。 ・ さっと射ていることから非情さを感じる。 </td></tr><tr><td>四十間余り離れた男の首を見事に射落としたことや，一度ならず二度までも難しい試験に立ち向かう与一対し感嘆した。</td><td>敵味方関係なく素晴らしいことに興して舞を舞っていたのに，ここで射落とすように命じた義経に対して，またその命令を遂行する与一に対しても非情さを感じたと思う。</td></tr><tr><td>これは源氏側の声だと思う。</td><td>平家側の声だと思うが，源氏側にも非情さを感じた人がいたと思う。</td></tr></table>	「あ、射たり。」		「情けなし。」	・ 相手が自軍の行いに感嘆していても，戦場であるから命令を下した義経の行動に当時の武士の考えがある。 ・ 例え自分に対し感嘆を表す舞を踊ってくれていても義経の命令は絶対だから，与一も覚悟したと思う。 ・ 今回はかぶら矢ではなく，中差を使ったところや十分に引き絞ったところに覚悟を感じる。	・ 年五十ばかりなる男は相手が敵であっても，扇を射落とした与一を褒め称えて舞ったのにひどい。 ・ 前時までの場面では戦いを忘れて両軍感嘆していたのに，いきなり戦いの最中に入っていくところに源氏の非情さを感じる。 ・ 「平家の方には音もせず」からびっくりして静まり返った様子がわかる。 ・ さっと射ていることから非情さを感じる。	四十間余り離れた男の首を見事に射落としたことや，一度ならず二度までも難しい試験に立ち向かう与一対し感嘆した。	敵味方関係なく素晴らしいことに興して舞を舞っていたのに，ここで射落とすように命じた義経に対して，またその命令を遂行する与一に対しても非情さを感じたと思う。	これは源氏側の声だと思う。
「あ、射たり。」	「情けなし。」								
・ 相手が自軍の行いに感嘆していても，戦場であるから命令を下した義経の行動に当時の武士の考えがある。 ・ 例え自分に対し感嘆を表す舞を踊ってくれていても義経の命令は絶対だから，与一も覚悟したと思う。 ・ 今回はかぶら矢ではなく，中差を使ったところや十分に引き絞ったところに覚悟を感じる。	・ 年五十ばかりなる男は相手が敵であっても，扇を射落とした与一を褒め称えて舞ったのにひどい。 ・ 前時までの場面では戦いを忘れて両軍感嘆していたのに，いきなり戦いの最中に入っていくところに源氏の非情さを感じる。 ・ 「平家の方には音もせず」からびっくりして静まり返った様子がわかる。 ・ さっと射ていることから非情さを感じる。								
四十間余り離れた男の首を見事に射落としたことや，一度ならず二度までも難しい試験に立ち向かう与一対し感嘆した。	敵味方関係なく素晴らしいことに興して舞を舞っていたのに，ここで射落とすように命じた義経に対して，またその命令を遂行する与一に対しても非情さを感じたと思う。								
これは源氏側の声だと思う。	平家側の声だと思うが，源氏側にも非情さを感じた人がいたと思う。								
展開後段	3. 本時のまとめを行う。		評価規準【知識及び技能】 古文や現代語訳の言葉に着目したり，前時までに読み取ったことを根拠にしたりしながら，当時の人々の見方や考え方を捉えている。 (ノート記述・発言内容)						
終末	扇を射落としたことに敵ながら感嘆し，舞を舞った年五十ばかりなる男。これに対し，相手が例え自分のため，自軍のために舞を舞っていたとしても命令を遂行して男を射落とした与一の覚悟を感じる。これを見た人々が「あ、射たり。」「情けなし。」と言っていたことから，この与一や源氏側の命令に対しては様々な考え方があったようだ。								

第3学年 社会科学学習指導案

場所 : 3年1組教室

学級 : 大野町立大野中学校

3年1組(33名)

〔公民的分野〕

単元名 第4章 私たちの暮らしと経済 第2節 一生産と労働一

授業者: 野原 克洋

1. 指導の立場

(1) 単元について

学習指導要領に示された本単元での指導内容は、以下の通りである。

(1) 市場の働きと経済

課題を追究したり解決したりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(ア) 個人や企業の経済活動における役割と責任について多面的・多角的に考察し、表現すること。

「個人や企業の経済活動における役割と責任」については、起業について触れるとともに、経済活動や起業などを支える金融などの働きについて取り扱うこと。

現在の中学生が成人して社会で活躍する頃には、少子高齢化による生産年齢人口の減少や、グローバル化の進展、技術革新により、社会構造や雇用環境は大きく変化する可能性が高い。そんな社会の中、日本の経済では、大量生産、大量消費による成長の行き詰まりや、長時間労働、非正規労働者の問題等、様々な問題がより深刻化すると考えられる。

そうした社会の変化に伴って、今後新たな発想や構想に基づいて財やサービスを創造する起業の重要性が一層高まることが予想されている。現在、国の政策でも、起業家教育を推進していたり、国や地方を挙げて起業支援を積極的行ったりしている。それは、起業が新たな雇用を生むことにつながったり、社会の要望が多様になる中で、多様な企業の形が求められたりするためである。だからこそ、起業の重要性がクローズアップされている。また、起業をすることで、時代、地域、人に合わせた多様な経済活動が生まれ、社会問題の解決にもつながるとも考えられている。

岐阜大学在学中の杉本稜太さんは、「Umai Japan 株式会社」を設立し、グローバル市場で高値で取引される日本の農産物をヒントに、富有柿の東南アジアへの輸出を計画している。

大学生にも関わらず起業を試みる杉本さん。大野町に土地を借りて自社農園で生産から販売まで行う「サプライチェーン」の構築を目指している。「未来へ続く農業」という思いをもち、跡継ぎ問題など岐阜県の農業が抱える今日的課題の解決を図ることを考えてプロジェクトを立ち上げている。コロナ禍の中、大学1年時に起業部入り、起業することにより自分の生きがいを実現させようとしている。

本時、生徒が触れる起業の考え方は、収入だけでなく、「自分は何がしたいのか」を考えて判断し、「自分や社会が豊かになるにはどうしたらよいか」を考え、現代社会を豊かに生き抜くための見方・考え方を育成することにつながっていくと考える。

(2) 生徒の実態

本単元では、「豊かさ」に着目し、「誰もが豊かな暮らしをするためどのように経済に関わっていくか」という単元を貫く課題を設定した。

生徒はこれまでの学習で、「消費者だけでなく、生産者や労働者の立場に立って経済を「考えること」「資本主義経済の中で、企業の最大の目的は利潤の獲得であること」「労働者は働き方を考えることが大切であること」に気付いている。また、情報化、グローバル化、少子高齢化が進展することによる経済の問題があることにも気付いている。しかし、その具体的な改善策について考えられている生徒は少ない。

本時は、起業に挑戦する杉本さんがどのような判断をして、起業という決断をしたのかを考えさせる。そうすることで、これからの社会において起業の考え方が、現代社会の問題を解決したり、生活を豊かにしたりする可能性があることに気付かせていきたい。

2. 研究との関わり

【研究内容2】について

社会科部では、「主体的に社会の形成に参画できる生徒」の育成を目指している。本時では、大野町の特産品である「柿」や「大学生」が起業に関わっていることで、社会に見られる課題に対して生徒自身が「なぜ柿なんだろう?」「なぜ大学生なの?」という疑問を見出し、実生活とつなげる教材を設定した。

研究内容2を受けて、社会科部では、深い学びの捉えを「根拠を明確にして、社会的事象の意味や意義、特色や相互の関係を考察したり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて構想したりする学び」としている。起業に関して、利潤の追求に加えて、自分の生き方や社会問題の解決といった事象を関連付け、多面的・多角的に起業の意義を見出させたい。また、それを知るために、仲間と起業に対する疑問を見出し、その考えを相手に直接伝え、自分自身の考えを発展させ、豊かな暮らしに自分がどう関わっていくかの、単元の出口への意識と繋げていく。

3. 単元構造図(全7時間)

【単元のねらい】

社会生活における職業の意義と役割及び雇用と労働条件や企業の精神について考えることを通して、現代の生産などの仕組みや働き、勤労の権利と義務、労働組合の精神に気付き、様々な課題を抱える今後の社会において経済活動によって豊かな暮らしを実現していこうとする意欲と態度を養う。

【単元はじめの生徒の意識】

資本主義とはなんだろう。生産と労働、企業などの経済の仕組みなど経済活動は私たちの生活にどうかかわっているのだろうか

【単元を貫く課題】

誰もが豊かな暮らしを実現するために、どのように経済に関わっていくとよいのだろうか

事実に関する認識の獲得

【①生産活動と企業】

課：現代の日本企業はどのように経済活動を行っているのだろう

<ねらい>分業と交換や資本主義経済の仕組みについて調べることを通して、私たちの生活に必要な財やサービスがどのように生産されているか理解することができる。
(知・技)

<生徒の意識>企業は資本主義経済の中で利潤を追求しているんだ。求められる財やサービスが変化している現代社会において、企業の技術革新やアイデアが大事だ。

【②株式会社の仕組み】

課：株式会社はどのような仕組みなのだろう

<ねらい>株式会社の仕組みを調べることを通して、株式を発行する意味や証券会社の役割、株主の権利について表現することができる。(思・判・表)

<生徒の意識>企業は株主に株を買ってもらうことで、その資金を元手に活動を行っているんだ。証券会社で株式のやりとりがあり、株主になると、配当や株主総会などの権利があることが分かった。

【③労働者の意義と労働者の権利】

課：労働者の権利を守るためにどのような権利が保障されているのだろう

<ねらい>労働者の権利を保障するために労働組合や様々な法律があることを理解することができる。
(知・技)

<生徒の意識>労働者は企業と契約し労働力を提供することで賃金を得ている。憲法の基本的人権の中にも労働者の権利が認められていて労働三法によって保障されている。豊かな暮らしには働き方も大切だ。

【④労働環境の変化と課題】

課：労働をめぐる環境にはどのような変化と課題が見られるのだろう

<ねらい>現在の雇用形態を学ぶことを通して、自分が望む働き方や誰もが働きやすい職場にするためにはどのようにするとよいかを考えることができる。
(主体的)

<生徒の意識>能力主義や終身雇用など働き方が多様化している。人手不足や、情報化、これからの働き方も変わってくるかもしれない。ワークライフバランスなど働くことで豊かな暮らしになってほしい。

事実に関する認識を深める

課：なぜ杉本さんは大学生でありながら富有柿の輸出の起業に挑戦しているのだろう

【⑤社会の変化と起業】

<ねらい>杉本さんが大学生でありながら富有柿の輸出に挑戦し起業しようとする理由を追究することを通して、企業による利潤の確保や、販売低迷や跡継ぎ問題などの課題を解決しようとしていることに気付き、様々な課題を抱える今後の社会において起業の考え方は自分にとっても、地域社会にとっても豊かな暮らしを実現する可能性があることを理解することができる。(思・判・表)(主体的)

<生徒の意識>

杉本さんは大学生なのに起業しようとしているんだ。起業というのは自分とは無関係だと思っていた。身近な柿を世界に輸出しようとしているのは、社会の課題を解決することで利潤を得ようとしていることが分かった。杉本さんの挑戦について色々聞いてみたい。

【⑥社会の変化と起業】

<生徒の意識>

杉本さんが大学生でありながら富有柿の輸出に挑戦しようとしているのは、後継者不足、少子高齢化といった農業の課題があり、情報化、海外への輸出によって、その課題を解決しようとして起業していることが分かった。柿はもうかるなんて考えたこともなかったけど、新しい発想を組み合わせることで、利潤になるんだ。今がチャンスと思いそこに挑戦しているところがすごい。

【⑦単元のまとめ】

課：誰もが豊かな暮らしを実現するために、どのように経済に関わっていくとよいのだろうか

【単元出口の生徒の意識】

それぞれの企業が資本主義経済の中で財やサービスを提供し、自分たちの生活が豊かになっていく社会の仕組みが分かった。労働者にも権利があり、少子高齢化が進む現代日本の労働の在り方もいろいろ変化している。そんななかで大学生の杉本さんは起業によって社会の課題やニーズから、その課題を解決することで利潤を得ようとしていることが分かった。今後、過疎や情報化など、様々な課題を抱える社会において起業の考え方は自分にとっても、地域社会にとっても豊かな暮らしを実現する可能性があることが分かった。自分の将来の働き方についても考えていきたい。

4 本時のねらい

杉本さんが大学生でありながら富有柿の輸出に挑戦し起業しようとする理由を追究することを通して、時代の変化を生かし新しい発想で未来に続く農業を創り出したいという思いに気づき、起業の考え方が、地域社会が抱える今日的課題を解決し、より豊かな暮らしを実現する可能性があることを理解することができる。

5 本時の展開

過程	学 習 活 動	研究内容について
導入	1. 既習内容を想起し、学習課題を確認する。 なぜ杉本さんは大学生でありながら、富有柿の輸出の起業に挑戦しているのだろう。	・根拠をもとに発表できるように「どこから」「なぜ」と問い返し、根拠を明確にして伝えるようにする。
展開前段	2. 課題に対して追究し、全体で交流する。 【杉本さんの取組】 「あまり稼げない」というイメージの農業の課題を考えた。農家の経験を活かし、後継者不足の土地を集約したり情報化を農業に生かしたりすることで生産が効率的になる。農家にとっても海外の消費者にとってもいいことだ。課題からニーズを捉え、どこに目を付けるかが大事なんだ。 【柿の可能性】 政府も日本の商品を海外で売ることを後押ししている。海外の柿と比べると日本の柿は品質が高い。海外で売れつつある日本の果実は今後可能性がある。少子高齢化の進む日本では、出荷額が横ばいだが、海外に柿の輸出が増えていることは知らなかった。この柿をブランド化してどう売るかを工夫することで、利潤を出そうとしている。 農家の後継者不足・情報化・グローバル化 時代の変化を生かし新しい発想で 起業に挑戦していく杉本さんの思い	・「何のために起業したのか？」 「なぜ富有柿に目をつけたのか」「なぜそれが利潤につながるのか」と問い、広がった考えを焦点化し事実に関する認識を形成する。
展開後段	【利潤の確保】 数年後を目指して、利潤を獲得しようとしている。これまでの農家は生産することに力を入れていたけど、生産から販売まで手掛けるビジネスの発想で、安く商品を届けられることができる。 【社会の課題解決 未来の農業】 杉本さんの起業がうまくいけば、柿の生産がさらに魅力ある産業になる。こうした新しい産業が生まれることは、少子高齢化の進む、岐阜県や大野町の未来になる。	・形成された事実認識を基に、自ら疑問に思ったことや、もっと知りたいと思うところを考え、社会の仕組みを知ろうという主体的な姿を生み出す。
終末	3. 調べた中で、自分たちが疑問に思ったこと出し合い（班交流）杉本さんに質問する。 ・なぜ大学生のうちに起業しようと思ったのか →今がチャンス。やりたいことにみんなも挑戦してほしい ・大変なことや収入などどう考えているのか →大きな夢があり、大変だけど挑戦することは楽しい 4. 杉本さんの話を聞く 5. 本時のまとめを行う。	【研究内容(2)】 ・ゲストティーチャーとして、杉本さんの起業に対する考え方や、岐阜県の抱える課題に挑戦しようとする考え方を広め、今後少子高齢化、情報化、グローバル化など社会の変化に伴って、新たな発想や構想に基づいて財やサービスを創造することの必要性や可能性について考える。 【研究内容(2)】
	杉本さんが大学生でありながら富有柿の輸出に挑戦しようとしているのは、後継者不足、少子高齢化といった農業の課題があり、情報化、海外への輸出などの新しい発想によって、その課題を解決しようと起業していることが分かった。柿はもうかるなんて考えたこともなかったけど、新しい発想を組み合わせることで、利潤になるんだ。今がチャンスと思いそこに挑戦しているところがすごい。今後変化していく社会において、起業の考え方は自分にとっても、地域社会にとっても豊かな暮らしを実現する可能性があると感じた。	評価規準【思・判・表、主】 杉本さんが起業した理由を「利潤」「新しい発想」「農業の課題解決」の視点から追究し、これからの現代社会のなかで豊かな暮らしをつくっていくための考え方を多面的・多角的に考察できる。 (発言内容、まとめの)

【資料2 日本の農林水産物について】

農林水産物・食品の輸出拡大実行戦略の進捗（HP 参照）

政府は日本の食品の輸出拡大を目指し、2030 年までに 5 兆円の輸出額目標を設定し、輸出拡大実行戦略を立ち上げた。日本の果実は、その高い品質がアジアをはじめとする諸外国で評価され輸出額は近年増加傾向で推移している。果樹などでは、りんご、ぶどう、桃、かんきつ、かき・かき加工品を輸出重点品目に選定し、輸出に対して重点的に支援、政府一体となってあらゆる施策を講じていく。

【2022 年果実輸出額】農林水産省 HP

輸出額 前年比

野菜・果実等	輸出額 (億円)	前年比 (%)
青果物	47,492	+24.3
りんご	18,703	+15.4
ぶどう	5,390	+16.4
いちご	5,242	+29.1
もも	2,897	+24.8
かんしょ	2,789	+12.6
ながいも	2,690	+16.3
なし	1,346	+40.1
かんきつ	1,272	+15.5
かき	1,189	+50.0



【資料3 杉本さんの取組】

- ▶ いいものを大量に効率的に生産
- ▶ 後継者不足によって使われなくなった農地の引継ぎ
- ▶ 環境に配慮した栽培方法
- ▶ 観光農園や生産地域ツアーなどで地域経済を活性化



2023年 10t → 2025年 60t → 2026年 100t

最新の技術・栽培方法を導入し
大量生産できる体制を構築

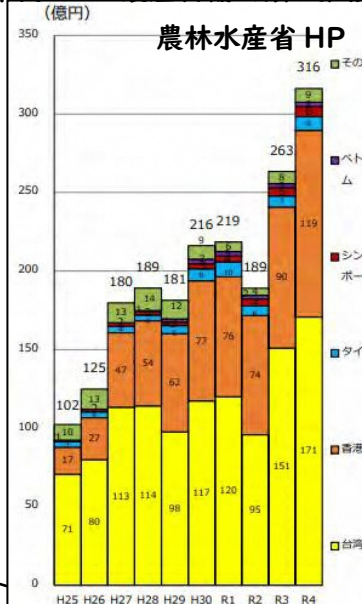
それに伴い、大規模な選果場や販売国での貯蔵場所も建設

海外のスーパーの海外産の柿の品質は良くない。品質の高い岐阜の柿をブランド化すれば高く売れる。「Umaiブランド」を確立し岐阜の柿が 2000 円～3000 円で海外で売れる。



【東南アジアのスーパーで売られる海外産の柿】

【東南アジア農産物輸出額の推移】



これまで生産してきた農家の貴重な経験をマニュアル化。ドローンやQRコード（生産情報）など技術の進歩を生かし、後継者不足の農地を集約すればより大規模な生産ができる。大野町でも生産。

【資料4 今後の Umai Japan 未来へ続く農業 杉本さんの話】



農産業におけるサプライチェーンの再構築

農産業の川上から川下、生産から販売までを一気通貫で行っています。生産、物流、販売における各データを共有し合うことで、安く早く高品質な商品をお客様のもとへお届けします。また、自社で大量生産を行うことで原価を抑え、世界中の幅広い層に商品をお届けいたします。

商品をつくるだけでなく、「それをどう売るか」のビジネスの視点を農業に取り入れることで、利益を拡大できる。あるものを組み合わせて、新しい発想で勝負する杉本さん。

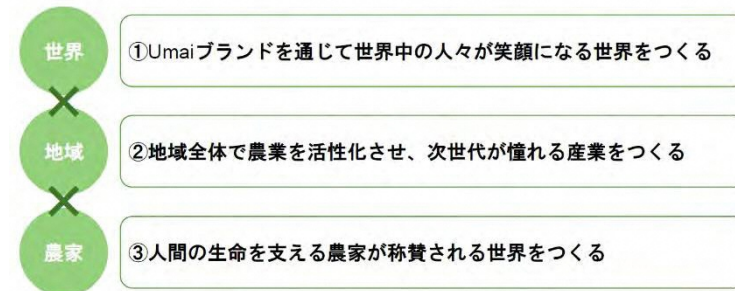
農家の経験、新しい情報技術、海外進出を組み合わせる新しい発想で、**稼げる農業を創り出す**。農業の仕組みを根本から変え、未来へ続く農業をつくれと思っています。正直今の段階では収入0。今は、現地調査や、たくさんの人に会い、事業をつくっている段階なので、いろんな方や企業の支援で事業を成り立たせています。今シーズンが初めて柿の販売を開始します。5年後には50～100ヘクタール（1ヘクタール＝100m×100m）、海外で生産し、秋だけでなく通年での販売を目指しています。こうした取り組みで、**農業＝カッコいいにしたい**と思っています。

【Umai Japan 株式会社 代表 杉本稜太さんについて】



- 2021 年福井県の農業高校を卒業し、岐阜大学応用生物科学部に入学。
- 2022 年起業に興味をもち大学の起業部に入部。高校時代から学習していたスマート農業（農業のデジタル化）推進事業を開始。
- スマート農業に関する事業を大幅に修正。
- 海外調査や農業現場での実務を学ぶ。
- 岐阜県の柿農家を集約し、輸出事業を開始する。
- 2023 年 7 月に Umai Japan 株式会社設立
- 2023 年秋より販売開始

杉本さんの目指すもの
世界を笑顔にできる未来へ続く農業をつくりたい！！



【資料 1 日本の農業の課題】

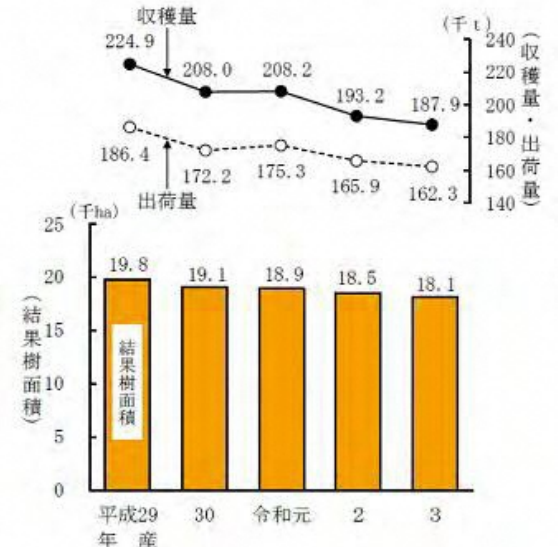
近年、国内人口・農業人口が減少する中、変化を生み出さなければ
農業が産業として成り立たなくなってしまう



- 国内の販売が主力→人口減少
- 規模の小さい農家が多い
- 経験や勘による技術→後継者問題
- 生産に力を入れる＝販売は別の会社

農業＝もうからないイメージ

図 4 かきの結果樹面積、収穫量及び出荷量の推移（全国）



杉本さんの新聞記事 [国産柿生産・販売一手に ブランド化海外市場へ：地域ニュース：読売新聞 \(yomiuri.co.jp\)](https://yomiuri.co.jp)

株式会社 Umai Japan ホームページ [Umai Japan 株式会社\(ウマイジャパン\) \(umai-japan.jp\)](https://umai-japan.jp)

第3学年 数学科学習指導案

場所 : 3年4組教室
学級 : 大野町立大野中学校
3年4組 (29名)
授業者: 小倉 華奈

〔図形〕

単元名 相似と比

1. 指導の立場

(1) 単元について

学習指導要領に示された本単元での指導内容は、以下の通りである。

B (1) 図形の相似

図形の相似について、数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 平面図形の相似の意味及び三角形の相似条件について理解すること。

(イ) 基本的な立体の相似の意味及び相似な図形の相似比と面積比や体積比との関係について理解すること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 三角形の相似条件などを基にして図形の基本的な性質を論理的に確かめること。

(イ) 平行線と線分の比についての性質を見だし、それらを確かめること。

(ウ) 相似な図形の性質を具体的な場面で活用すること。

第3学年では、三角形の相似条件などを用いて図形の性質を論理的に確かめ、数学的な推論の必要性や意味及び方法の理解を深め、論理的に考察し表現する力を養う。また、基本的な立体の相似の意味を理解し、相似な図形の性質を用いて図形の計量ができるようにしていく。

(2) 生徒の実態

第2学年では、「平行と合同」という単元において、移動させて重なり合わせることができる2つの図形は「合同」であると学習している。その中で、仮定から導かれる事柄を明らかにし、それらをどのように活用したらよいのか、何が言えればよいのかなど、論理的に考え、表現することに課題が残った。本単元では、等しい辺の組や等しい角を見つけて明確にすることや全体でしっかり証明の流れを確認することで、論理的に説明する力や、新たな性質を見いだしていきたい。

また、本時では、面積の比が相似比の2乗になることを様々な図形を用いて根拠を明確にして論理的に説明できるように指導していきたい。

2. 研究との関わり

【研究内容2】について

数学科では、「根拠を明確にすることで、統合的・発展的に考察する力が付き、数学的な表現を用いて、正しく表現することができる生徒」を育みたいと考えている。

主体的な学びを生み出すために、本時では、相似比が2:3である2つの三角形の面積の比が4:9であることを全体でテンポよく確認する。その際に、「他の図形はどうか」と問いかけをすることで、他の平面図形でも面積の比が相似比の2乗の形で表すことができるか調べていこうと、生徒に課題意識をもたせ、主体的な学習をさせたい。そして様々な図形の面積の比を求めたときにどの図形でも相似比が2:3ならば面積の比が4:9になることに気付かせたい。様々な図形で確認したことを統合的・発展的に考察し、また、これまで学習してきた図形の面積を求めることで、適用範囲を広げ、面積の比が $m:n$ である2つの面積の比は $m^2:n^2$ になるという一般化を行う過程を大切にしたい。

対話的な学びを生み出す工夫として、本時では、自分が調べた図形をスクリーンに送ることで、他の生徒がどの図形を調べたのか一覧で見ることができるようにする。そうすることにより、交流のときに自分と同じ図形を調べた仲間のところに行き、自分の考えたことが正しいのか確認したり、分からなかった図形を分かる生徒に聞きに行くことで新しい考え方に触れたりすることができる。また、交流では、互いに考えを聞き合える集団づくりを今まで大切にしてきた。全体交流ではなく小集団交流をすることで、分からない生徒は、分かる生徒に自分から聞きに行くなど、受け身ではなく、自分から分かろうとする生徒を価値づけ、育てたい。全ての図形で考えることができた生徒は、式などの根拠をもとにして説明ができるようにする。そして、お互いの考えを確認する場を充実させることで、数学的な表現を用いて、正しく表現できるようにする。

【研究内容3】について

本時学んだことを「分かったこと」「どうして分かったか」「次に学びたいこと」の視点から振り返り書くことで、考えの変容に気付いたり学びを確かにしたりする。

3. 単元構造図(全20時間)

【単元のねらい】

平面図形の相似の意味及び三角形の相似条件を理解し、図形の基本的な性質を論理的に確かめることを通して、ある図形と相似な図形の面積や体積を求めたり、具体的な場面で活用したりすることができる。

【単元はじめの生徒の意識】

2つの合同な図形の辺の長さや角の大きさは等しかったが、小学校のときに学習したある図形を拡大、縮小した図形にはどんな関係があるのだろうか。

1 節 相似な図形

【①②③ 相似な図形の性質】

課：2つの図形を拡大・縮小したことによってできる図形の性質について調べよう。

<ねらい>

2つの図形が相似であることの意味を理解し、相似な図形の性質を理解することができる。(知・技)

<生徒の意識>

相似な2つの図形は対応する辺の長さや角を求めることができる。

【④⑤⑥ 三角形の相似条件】

課：三角形の相似条件を理解し、2つの三角形が相似であるか証明しよう。

<ねらい>

三角形の相似条件を理解し、2つの三角形が相似あることが証明することができる。(知・技)

<生徒の意識>

相似な2つの図形はの記号を使って表すことができる。また、三角形の相似条件を使って、2つの三角形が相似であるか判断することができる。

2 節 図形と比

【⑦⑧ 三角形と比】

課：新たな定理を見いだすことによって、線分の長さを求めたり、平行な線分の組を見つけないしよ。

<ねらい>

平行線をもつ三角形の相似を証明することができる。また、辺の比が等しくなる三角形の辺の位置関係が平行になることを証明し、平行になるための条件を見いだすことができる。(知・技)

<生徒の意識>

平行線をもつ三角形は定理を使うと線分の長さを求めることができたり、辺の比が等しくなる三角形の中の2つの線分が平行線の関係になることが分かった。

【⑨⑩⑪⑫】

課：新たな定理を見いだすことで、線分の長さや、面積の比を求めよう。

<ねらい>

平行線に交わる2直線の辺の比に着目することで新たな比の関係を見出したり、三角形の面積を比べたりすることができる。特別な条件をもつ三角形について考えることを通して、新たな定理を見いだすことができる。(知・技)

<生徒の意識>

平行線の線分に補助線を引くと相似な三角形をつくることができ、線分の長さを求めることができることが分かった。

【⑬ たしかめよう】 新たに見いだした定理を活用し、問題を解決することができる。(主体的)

3 節 相似な図形の面積と体積

【⑭相似な図形の面積】(本時)

課：相似な図形の相似比と面積の比との関係は、どんな図形でも面積の比が4:9になるのか。

<ねらい>

相似な図形の相似比と面積の比の関係を調べることを通して、相似な図形の一方からもう片方の面積を求めることができる。(知・技)

<生徒の意識>

相似な図形の相似比が分かれば、面積の比が分かり、一方の面積が分かっているれば、もう片方の面積も求めることができる。

【⑮相似な立体と表面積】

課：相似な立体の相似比と表面積の比の関係を調べて、表面積を求めよう。

<ねらい>

相似な図形の相似比と表面積の比の関係を調べることを通して、相似な立体の表面積を求めることができる。(知・技)

<生徒の意識>

相似な図形の相似比が分かれば、表面積の比が分かり、一方の表面積が分かっているれば、もう片方の表面積も求めることができる。

【⑯相似な立体の体積】

課：相似な立体の相似比と体積の比の関係を調べて、体積を求めよう。

<ねらい>

相似な図形の相似比と体積の比の関係を調べることを通して、相似な立体の体積を求めることができる。(知・技)

<生徒の意識>

相似な図形の相似比が分かれば、体積の比が分かり、一方の体積が分かっているれば、もう片方の体積も求めることができる。

4 節 相似な図形の利用

【⑰校舎の高さを調べる方法を考えよう】

課：相似な図形の性質を使って、長さを求めよう。

<ねらい>

直接測ることのできない長さを相似の性質を使って、考えることができる。(思・判・表)

<生徒の意識>

影や鏡を使うことによって、相似な図形を作り出すことができ、直接測ることが困難な長さを測ることができる。

【⑱縮図を使って考えよう】

課：相似な図形の性質をもとにして縮図をかき、問題を解決しよう。

<ねらい>

縮図をかくて、測ることができる長さに置き換えて考えることができる。(思・判・表)

<生徒の意識>

三角形の相似条件を使い、縮図をかいて、 x などの文字におきかえることで、直線測ることが困難な長さを求めることができる。

【⑲相似を利用して身の周りのものの体積を求めよう】

課：相似な図形の性質を利用して、容積や体積を求めよう。

<ねらい>

身のまわりのものを図形として捉え直すことを通して、相似な図形の性質を活用することができるに気づき、それらを生かして、容積や体積を求めることで、問題を解決することができる。(思・判・表)

<生徒の意識>

円錐状の容器に入ったジュースの体積や、チーズケーキを円柱状として捉えることで、相似な図形の性質を使って問題を解くことができる。

【⑳ 5章をふり返ろう】 単元で学習したことを活用して、問題を解決することができる。(主体的)

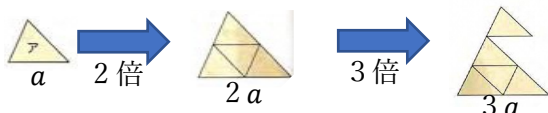
【単元出口の生徒の意識】

拡大・縮小をしても形は変わらず、日常生活の中である商品が相似な立体とみることができる。そのときに相似比や体積比を求め、体積比と価格などを比べてどちらが自分には合っているか調べることができることも分かった。

4. 本時のねらい

相似な図形の相似比と面積の比の間に成り立つ関係を調べることを通して、面積の比が相似比の2乗になることに気づき、相似な図形的一方からもう片方の面積を求めることができる。(知・技)

5. 本時の展開

過程	学 習 活 動	研究内容について												
導入	1. 素材提示 ・アの三角形を使って、辺の長さを2倍すると相似な三角形ができることを全体で確認する。 ・アの三角形を使って、辺の長さを3倍、4倍…していったときに、面積にどんな関係があるのか考える。 <table border="1"><tr><td>辺の長さ</td><td>2 倍</td><td>3 倍</td><td>4 倍</td><td>5 倍</td><td>...</td></tr><tr><td>アの三角形の枚数</td><td>4</td><td>9</td><td>16</td><td>25</td><td>...</td></tr></table> ・式で面積の比を表してみよう。 相似比 2 : 3 の三角形アと三角形イの面積の比を調べよう。 三角形アの底辺 : 2a, 高さ : 2h とすると、三角形イの底辺 : 3a, 高さ : 3h と表せる。それぞれの面積を求め、面積の比にすると三角形ア : 三角形イ = 2ah : $\frac{9}{2}ah = 4 : 9$ 相似な図形の相似比と面積の比との関係は、どんな図形でも面積の比が 4 : 9 になるのか。	辺の長さ	2 倍	3 倍	4 倍	5 倍	...	アの三角形の枚数	4	9	16	25	...	・アの三角形を4枚使うと相似な三角形をつくることを全体で確認する。 (・辺の長さ・角の大きさなど) ・敷き詰められた枚数に着目して関係を見つけていく。 <
辺の長さ	2 倍	3 倍	4 倍	5 倍	...									
アの三角形の枚数	4	9	16	25	...									

第1学年 理科学習指導案

〔物理的分野〕

単元名 光・音・力による現象 2章 音による現象

場所 : 大野中学校第1理科室

学級 : 大野町立大野中学校

1年1組(35名)

授業者: 福富 英玄

1. 指導の立場

(1) 単元について

学習指導要領に示された本単元での指導内容は、以下の通りである。

(1) 身近な物理現象

身近な物理現象についての観察、実験などを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(中略)

イ 身近な物理現象について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、(中略) 規則性や関係性を見い出して表現すること

(ア) 光と音

(中略)

⑤ 音の性質

音についての実験を行い、音はものが振動することによって生じ空気中などを伝わること及び音の高さや大きさは発音体の振動の仕方に関係することを見い出して理解すること

音を出すものが震えていることについては、太鼓の膜の様子を観察するなどの活動を通して、小学校でも体験的に学習している。中学校では、その「振動の仕方」にも注目し、その規則性について、学習をさらに深める。

(2) 生徒の実態

本単元は、「1章 光による現象」、「2章 音による現象」、「3章 力による現象」の3つの章で構成されている。

単元に先だって、身近な物理現象についてのレディネステストを実施した。結果、「光は直進する」「光は鏡などに当たると、折れ曲がるように反射する」「音が鳴る物は振動している」ことなどは、正答率が高かった。多くの生徒が、小学校の学習が定着している。

反面「ギターなどの楽器の弦を短くするとどうなるか」や「水中では、音はどのように聞こえるか」という質問には、それぞれ「低くなる」「聞こえなくなる」などの回答や、無回答のものがいくつかあった。これらのことから、「学習した内容を、日常生活とつなげることに弱さが見られること」「自分の意見を、自信をもって表現すること」に弱さがあることが明らかになった。このことは、他の単元でも同様に感じられた。

本時だけでなく、日ごろの授業から、実験・観察する対象にじっくりと向き合い、分かったことを進んで表現していけるよう、指導していきたいと考える。

2. 研究との関わり(【研究内容2】について)

理科部では、実験を通し、科学的事象を自分の目で確かめ、疑問をもつことによって、「探究したい」という気持ちを育てたいと考えている。さらに理科の学びを通して、「分からないことが分かる」「学習したことがつながる」といった経験を数多く積むことが、研究主題にもある「社会で生きる力の育成」にもつながると考える。

研究内容2を受けて、理科部では深い学びの捉えを「自然の事物・現象から問題を見出し、見通しをもって課題や仮説の設定をし、探究する学び」とした。そうした学びを実現するために、主体的な学びを生み出す指導の工夫、対話的な学びを生み出す指導の工夫を本時の学びにも取り入れた。

主体的な学びを生み出す指導の工夫として、単元の導入時に、まず、「発音体が振動し、その振動が鼓膜に届くことで音が聞こえる。」ということを学習する。その上で、モノコードを用いて、音量や音程を変える条件について確認する。この2つのことから、「音量や音程が変わる時、振動の仕方もきっと変わっているはずだ。どのように変わっているのだろうか?」という問いが生まれる。この問いを、「実験を通して明らかにしよう」という主体的な学びにつなげたい。

現実にはモノコードを用いた実験で、振動数を目で見て確認することは不可能である。中学校1年生の段階では、物理現象を身近に感じるために、体験的に学習すること大切だと考える。そこで、ゴムひもを使い、モノコードのように振動する長さや、張りの強さなどを変え、振動の様子を観察を通して気付かせるようにする。しかし、これでは肝心の音が鳴らないので、タブレットにある音の振動をグラフ化するアプリケーションを用いて、モノコードでも同様の現象が起きていることを確認させる。このアプリケーションは、モノコードと違って、波形を一時停止させることができるので、振幅や振動数を確認することができる。これによって、目では追えない振動の様子を、身近に感じ取れるようにする。

3. 単元構造図

【単元全体のねらい】

理科の見方・考え方をはたらかせながら、身近な物理現象についての探究的な学習を通して、光・音・力についての物理現象について理解を深めさせるとともに、それらの観察・実験などに関する技能を習得し、主体的に探究しようとしてすることができる。

【単元はじめの生徒の意識】

小学校でも光・音・力については学習した。しかし「凸レンズを使えば、光を集められる」「音が鳴るとき震えている」のように、現象について学習するのが中心で、「そこにどんな法則があるか」まで深く考えていない。

【本時までの単元指導計画】

1 章 光による現象（8 時間）

【実験計画】

1 章：実験 1 鏡ではね返るときの進み方 実験 2 空気と水の間での光の進み方
実験 3 凸レンズによってできる像

【第 1 章まで終えての生徒の意識】

「物が見える」ということは、光が目に入り、「その直線上に物があるはずだ」と脳が考えることで見える。だから、光が反射したり、屈折したりすることで、直線で進まないと、普段とは違ったものの見え方になる。光の反射や屈折には法則がある。

【単元を貫く課題】

身のまわりの現象には、どんな法則があるのだろうか。

第2章 音による現象（全6時間）

【①② 1. 音の伝わり方】

課：音の振動は、どのようにしてまわりに伝わるのだろうか。

<ねらい>

音が鳴っているものの様子を調べることを通して、発音体は振動しており、それを空気や水が振動を伝えることで、音が聞こえることを理解することができる。（主体的）

<生徒の意識>

「物が見える」ということは、「光が目に入る」からだ。た。「音が聞こえる」は、「振動が波のように広がり、鼓膜に伝わる」ということだ。光とは全然違う。

【③④ 2. 音の大小と高低】

課：音の大きさや高さはどのようにして決まるのだろうか。

<ねらい>

モノコードの弦をはじき、音の大きさや高低がどのように変わるか調べる実験を通して、強くはじけば音の大きさが大きくなり、弦を短くしたり、張りを強くしたりすることで音程が高くなることを理解することができる。（知・技）

<生徒の意識>

弦を強くはじけば、大きい音が鳴る。弦の長さや張りの強さを変えることで音程が変わる。このことはギターやピアノなどの楽器や、定規をはじいた時でも同じことが言える。

【⑤（本時）

課：音の大きさや高さを変えた時、振動は変化しているのだろうか。

⑥音のちがいと振動のようすの関係】

<ねらい>

弦を強くはじいた場合や、振動する部分を短くしてはじいた場合に、弦の振動がどうなるかを調べる実験を通して、大きな音が鳴るときは、弦が大きく振動し、高い音が鳴るときは、弦が速く振動していることに気づくことができる。（思・判・表）

<生徒の意識>

音が変われば、振動の様子は変わりそうだ。どのように変わっているかを調べるには、専用のアプリケーション使えそう。これを使って調べると、大きい音の時は山が大きく、高い音の時は細かく振動していると分かる。だから、大きい音は振幅が大きく、高い音は振動数が多いと言える。

【単元出口の生徒の意識】

「音が聞こえる」とは、「振動が波のように広がり、鼓膜に伝わる」ことである。この振動の振幅や振動数が変わることで、違った音として聞こえる。この現象には、「振幅が大きい（小さい）ければ、音量が大きい（小さい）くなる」「振動数が多い（少ない）ければ、音程が高（低）くなる」という法則がある。

4 本時のねらい

弦を強くはじいた場合や、振動する部分を短くしてはじいた場合に、弦の振動がどうなるかを調べる実験を通して、大きな音が鳴るときは、弦が大きく振動し、高い音が鳴るときは、弦が速く振動していることに気づくことができる。

5 本時の展開

過程	学 習 活 動	研究内容について
導入 展開前段	1. 事象提示 黒い膜の上に食塩をまき、声を当てて、模様を観察する。 →声によって模様が変わるのは、音の大きさや高さによって振動が変わるからではないか。 課：音の大きさや高さを変えた時、振動は変化しているのだろうか。 2. 弦の振動を調べる方法を考える。 ・アプリケーション (オーディオスペクトルアナライザ) の説明を聞く。 <生徒の見通し> ・大きい音を鳴らすために、強くはじいた時は、弦が大きく震えていた。塩の粒も大きく跳ねていた。 ⇒振動の山が大きいのではないか。 ・音を高くするために、短い弦をはじいても、振動の変化は目では分からなかった。塩の粒の跳ね方からすると、細かく跳ねているように見えた。 ⇒細かく振動しているのではないか。 3. 実験結果（証拠）とつなげて考えをまとめる。 ・「①大きい音」「②小さい音」「③高い音」「④低い音」の4つについて、それぞれの典型的な波形の画像がとれるよう、実験する。 <結果の例> 4. 結果を交流する。 ・強くはじくと、音は大きくなり、波の形の山が大きくなった。 ・弦を短くすると、音は高くなり、波の山は小さい山がたくさんできた。このことから、弦が速く振動していたということが言える。 5. 本時のまとめを行う。 ・音が大きい時は、大きく振動している。 ・音が高い時は、はやく細かく振動している。	・導入の演示実験で、音の大きさや高さを意図的に変えることで、本時の学習課題に対する興味関心を高める。 【研究内容2 主体】 ・振動の様子と波形の関係について、ゴムひもを用いて、具体化して説明する。 ・小学校で学習した「条件の統一」に触れ、ある条件に付いて変えた時は、他の条件は変えてはいけないことを確認する。 評価規準【思考・判断・表現】 アプリケーションを用いて記録した音の波形を分析し、大きな音や高い音が鳴っている時の弦の振動の違いをとらえ、まとめている。(タブレットの画像・発言内容) ・アプリケーションの波形を根拠として、音の大きさや高さが違うと、振動がどのように違うか、班で話し合って比較し、検討する。 【研究内容2 交流】 ・音の変化と、アプリケーションの波形との関連について考え、弦が振動している時の様子についてまとめる。 【研究内容3】 ・モニターに映して、自分の考えを発表する。 【研究内容2 交流】
展開後段 終末		

第2学年 英語科学習指導

〔NEW HORIZON English Course2〕

単元名 Unit4 Homestay in the United States

場所 : 2年3組教室

学級 : 大野町立大野中学校

2年3組 (30名)

授業者: 河合 厚弥

ALT : Sam AXELROD

1. 指導の立場

(1) 単元について

中学校学習指導要領解説外国語編に示されている、本単元における指導内容は以下の通りである。

話すこと〔発表〕
イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができるようにする。
思考・判断・表現力等
イ 日常的な話題や社会的な話題について、英語を聞いたり読んだりして得られた情報や表現を、選択したり抽出したりするなどして活用し、話したり書いたりして事実や自分の考え、気持ちなどを表現すること。

本単元では、習慣や文化の異なる環境での生活やマナー、コミュニケーションの大切さや難しさについて考えさせるためにキャラクター達のホームステイ体験が扱われている。異なる国での「当たり前」になっている生活習慣や文化について知り、ともに暮らすにはどうするとよいかを考えるきっかけにさせたい。言語材料としては、have to と must といった助動詞と、主語または目的語になる動名詞が扱われている。

本時では、日本に来る予定のアメリカ人のパトリックに、日本で過ごす際に知っておくとよい習慣やマナーを考える。パトリックにとって「当たり前」になっている生活習慣やマナーが、何であるかを明確にするとともに、パトリックが安心して日本での生活が送れるようなアドバイスを考える。

(2) 生徒の実態

Unit3 では、自分の将来の夢やなりたい職業について英語で考え、学級の仲間や ALT に伝える活動を行った。単元で学習した不定詞を入れることで、自分の考えをより具体的に話せることを理解した。

Unit4 では、各パートの登場人物にとっての生活習慣やマナーなど「当たり前」と考えていることを少しずつ理解することで、相手の立場で考えることが大切

であることを理解した。また、本時の単元のまとめの活動でも登場人物の「当たり前」を理解するが、これまでの授業で学んだ、様々な「当たり前」やその背景にある文化などを想起させ、相手の「当たり前」やその背景を踏まえたアドバイスができるようにする。

2. 研究との関わり

【研究内容2】について

英語科部では、対話活動を通して、相手に自分の考えや思いを伝えるにはどのような表現を使うとよいか自分で選択して表現する生徒を育てたいと考えている。さらに英語の学びを通して、話す目的や場面、状況に応じて、相手に分かりやすく伝えようとすることができる生徒を育てていきたい。

まず、「主体的な学びを生み出す指導の工夫」として、パトリックの3つの関心事のうち、どのことについてアドバイスするのかを生徒に選択させる。また、同じ関心事についてアドバイスを考えた生徒同士で小集団を形成して言語活動に取り組ませる。このように生徒に「自己選択」「自己決定」をさせることが、主体的な学びにつながると考える。

次に、「対話的な学びを生み出す指導の工夫」として、同じ疑問に対してのアドバイスを考えた人で集まり、交流する場を設ける。言語活動に入る前に「一つの関心事につき、交流して内容の違うアドバイスを3つ以上は作ろう。」という明確な目的を生徒にもたせる。そうすることで、他者との対話を通して自分の考えを広げたり、深めたりすることができると思う。また、全体交流をする前に今まで単元を通して学習してきた登場人物の「当たり前」を確認する時間を設ける。さらに、今まで学習してきた登場人物が考えている「当たり前」を再確認することで、改めてパトリックが困りそうな日本の「当たり前」を予測してアドバイスを考えることが大切であると気付かせる。このように前回まで学習してきたことを再確認し、改めて自分の考えを見直すことが再構築であり、「深い学び」につながると考える。

3. 単元構造図(全11時間)

【単元のねらい】

ホームステイ体験を読み取り、日本に住む自分達にとっての当たり前と、外国の人々にとっての当たり前は異なることに気づき、ともによりよく暮らしていくために相手の立場や考えを踏まえながらアドバイスを伝えることができる。

【単元のはじめの生徒の意識】

「ホームステイ」という言葉は聞いたことがあるが、実際にはどういうことをするのだろうか。もし自分の家に外国の人が来たら、自分達の習慣や文化をどのように教えればよいのだろうか。

【①②ホームステイについて】 課題: What is important during the homestay?

<ねらい>

ホームステイである必要があることやないことを、理解したり伝えたりすることができる。(知・技)(主体的)

<生徒の意識>

ホームステイでは、コミュニケーションをとるために完璧な英語を使う必要はなく、自分の考えや思いを伝えようとするのが大切である。

【③④日米の生活習慣や文化の違い】

課題: What is something natural for Kaito and Mrs. Wilson?

<ねらい>

日米の生活習慣や文化の違いを知り、海斗とウィルソンさんがともに生活するための解決策を考えて書くことができる。(思・判・表)

<生徒の意識>

海斗とウィルソンさんそれぞれに当たり前だと思っていることがあるため、ともに生活していく上でもそれぞれの生活習慣や文化を理解し合うことが大切である。

【⑤⑥他の国の人に自分の学校紹介】

課題: What are the Ohno JHS rules? And why are they important?

<ねらい>

他の国でのルールがあることも理解したうえで、自分達の学校のルールを伝えったり、書いたりすることができる。(思・判・表)(主体的)

<生徒の意識>

他の国でもルールが存在しており、それを守ってきたからこそ、自分達のルールを当たり前だと決めつけず、丁寧に分かりやすく伝えなくてはならない。

【⑦⑧ホームステイでの問題点】

課題: What good advice would you tell Shin and Nami?

<ねらい>

ホームステイでの問題点を知り、気持ちよく生活するための解決策を伝えたり書いたりすることができる。(思・判・表)(主体的)

<生徒の意識>

慎と奈美のホームステイ先での悩みや当たり前だと感じていたことを理解することができた。ただ、それと同時に慎と奈美のホストファミリーの当たり前を理解することも大切だ。

【⑨⑩海斗がホームステイ先で大切だと感じたこと】

課題: What are important during the homestay?

<ねらい>

海斗のホームステイ先での感想文を読む活動を通して、海斗がホームステイ先で分からないことや困っていることがある時には、自分の気持ちを英語で話し続けることが大切だと理解することができる。(知・技)

<生徒の意識>

海斗がホームステイを充実させることができたのも、分からないことや困ったことがあった時にも自分の気持ちを英語で伝え続けたからだ。だから、英語で話し続けることが改めて大切だと感じた。

【⑪パトリックにアドバイス(本時)】

課題: What good advice would you tell Patrick? And why?

<ねらい>

パトリックが安心して日本で過ごせるように、パトリックが当たり前だと思っている生活習慣や文化を理解し、そこから日本で過ごす際に知っておくよい習慣やマナーをより詳しく伝えることができる。(思・判・表)(主体的)

<生徒の意識>

パトリックにも当たり前になっている生活習慣や文化があることを理解し、自分達の生活習慣や文化を当たり前にするのではなく、パトリックに寄り添うことが大切だ。

【単元出口の生徒の意識】

他の国の人と生活する中で相手の生活習慣や文化を知って終わりにするのではなく、相手の生活習慣や文化を尊重し、自分にとっての「当たり前」に縛られず、相手の「当たり前」を理解することがお互いのコミュニケーションを深めるうえで大切なことだ。

【単元を貫く課題】 What is important during the homestay?

4. 本時のねらい

パトリックが安心して日本で過ごせるように、パトリックが「当たり前」だと思っている生活習慣や文化を理解し、そこから日本で過ごす際に知っておくよい習慣やマナーをより詳しく伝えることができる。

5. 本時の展開

	主な学習活動	指導・援助
導入	1. 帯活動 (Small Talk) お互いに「当たり前」が違うことを理解する。 (お皿に料理が載っている写真を見ながら) S1: What food do you want to eat first? S2: I want to eat chicken. 2. 教師と ALT でやりとりを見る。 3. パトリックのブログを読み、彼が日本に来る時に気になっていることを読み取る。 ① I want to eat delicious food in Japan, but I don't know Japanese tables manners. Also, I'm not good at using chopsticks. ② In American restaurants, we usually leave 15% as a tip. How much should we leave in Japan? ③ I'm going to live with a host family. What Japanese customs should I know about? 4. パトリックにとって「当たり前」になっていることを確認する。 (例) ① 箸を使う習慣がない。 ② レストランで、店員にお礼としてチップを支払っている。 ③ アメリカにも生活様式がある。 What good advice would you tell Patrick? And why?	・本単元で学習してきた「当たり前」を再認識させる。自分で考え、相手に分かりやすく伝える。 【研究内容 1・2】 ・パトリックの 3 つの関心事のうち、どのことについてアドバイスするかを選択させることで、全員が主体的に学習に向かうことができるようにする。【研究内容 2】 ・単元を通して学習してきたことをつなげて考えさせることで、生徒の多面的・多角的な思考につなげる。【研究内容 1】 ・言語活動に入る前に「一つの関心事につき、交流して内容の違うアドバイスを 3 つ以上は作ろう。」という明確な目的を生徒にもたせることで「対話的な学び」につなげる。【研究内容 2】
展開前段	5. パトリックに対してのアドバイスを考える。 ① He can use a spoon and fork. ② He doesn't need to leave a tip. He says "Thank you". ③ In Japan, he should separate the trash. 6. 自分の考えを整理・再構築する。 T: What is something natural for host family in the United States? Do you remember? How about Mrs. Wilson? S: She thinks Kaito must go home by six because it is not safe in America.	・どう伝えるかを一方的に伝えるだけでなく、生徒自身がどうするとより伝わるかを考えることで「深い学び」につなげる。 【研究内容 2】
展開後段	7. 同じ疑問についてのアドバイスを考えた人同士でグループを作り、交流する。 (①の場合) A: I can teach him how to use chopsticks. B: He doesn't have to use chopsticks. He can use a "knife and spoon." C: It's easy to use chopsticks. Let's practice using chopsticks.	・文法の誤りは、全体交流の際に正しい形を確認し、正しい文法で書いているかどうかを自分自身で考えさせることが「確かな学力」につなげる。【研究内容 2】 ・自分で考えたものと比較して考えさせることで他の生徒との違いに気付き、更なる学びにつながるようにする。自分で学習したものをまとめさせることで、本時学んだことを確認させる。【研究内容 3】
終末	8. 全体交流によって、仲間の意見を取り入れる。 ○数人が発表し、自分が考えた内容と比べながら仲間のアドバイスを聞く。 (聞く視点) ・相手の「当たり前」だと思っていることを理解し、アドバイスできている。 9. 本時のまとめ・振り返りを行う。 ○自分のアドバイスをプリントにまとめる。 ○ALT からのフィードバックを聞く。 He wants to eat delicious food. When he wants to eat, he can use a spoon and fork. He has to call the waiter before he orders. He doesn't have to pay for a spoon and a fork.	評価規準【思考・判断・表現】 外国の人が安心して日本で過ごせるように、日本で過ごす際のアドバイスについて、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話している。 (発言内容・プリント)